

(上) 伏見の酒蔵街、(左下) 京阪中書島駅、(右下) 途中で立ち寄った商店街

中書島 ちゅうしょじま

旅の始まりは伏見の中書島。電車に乗り込む前に駅前をぶらりと散策してみると、宇治川派流沿いに酒蔵を見つけた。一面に並ぶ酒蔵は圧巻で、壁の木目が長い時の流れを感じさせる。このあたりには酒造会社の博物館もあるので、酒好きにはたまらないだろう。

そこからしばらく歩くと、百万遍近辺ではあまり見かけないアーケードのある商店街を発見。おいしそうなおパンの匂いについつい足が止まりそうになるが、旅はまだ始まったばかり。坂本龍馬ゆかりの寺田屋を見物しつつ、駅へと向かう。電車に乗り込み、いざ宇治へと出発。



はみだし
すてーじ

はっみ↑だっし↓ステージ♪
⇒「はみだしすてーじ」では読者のみなさんからの投稿を紹介します。

黄檗 おうばく

■ 黄檗山萬福寺

黄檗という一風変わった駅名にひかれて途中下車。近くにあるお寺に由来するらしい。徒歩10分ほどでそのお寺——黄檗山萬福寺に到着した。寺社は明風の建築様式で、整然と並ぶ松とあいまってどことなく日本とは違った印象を持っている。木々のざわめきのほかは何も聞こえない静寂に包まれた広い境内を歩くだけで心が洗われるような気がした。

(右) 開版。木魚の原型とされる



☎0774-32-3900 ☎9:00~16:30 ③500円



(上) 萬福寺総門、(左下) 三門、(右下) 回廊

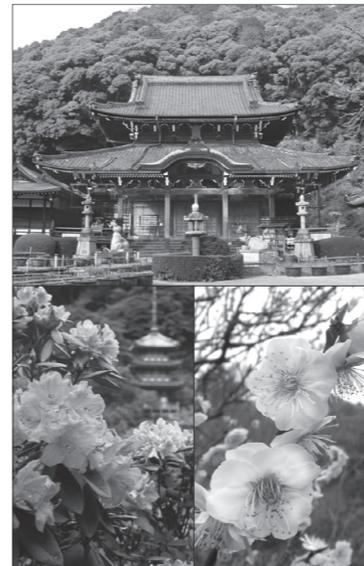


——電車で中書島から宇治へ気の向くままに散策の旅へ。まったりと時が流れるぶらり旅はいかがですか？

(色葉)

ぶらり宇治の旅!

(工・2 トンカツ)
(なーんてみなさん知ってますよね!; 編)



(上) 三室戸寺本堂、(左下) ツツジ、(右下) 梅。取材時には見ごろを迎えていた

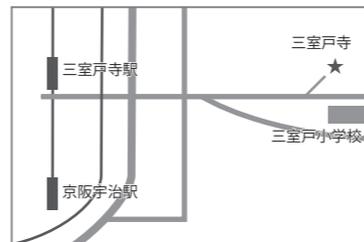
三室戸 みむろど

■ 三室戸寺

宇治の一駅前、三室戸で途中下車。四季折々の花を楽しむ「花の寺」として有名な三室戸寺というお寺があるということで早速歩を進める。筆者が訪れたときは境内にある三重塔の周りの梅がきれいに咲いていた。山中のひっそりとした雰囲気の中に広がる庭園を見ているだけで心が静まる。

4~5月にはツツジ(写真)とシャクナゲが見ごろを迎えるそうである。読者のみなさんも足を運んでみてはいかがだろうか。

☎0774-21-2067 ☎8:30~16:30 ③500円



はみだし
すてーじ

午後のコマンドが「家に帰る」一択になった。
⇒それは困りましたねえ……。

宇治 うじ

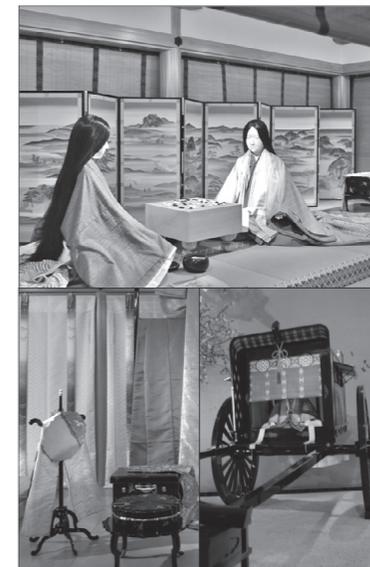
とうとう旅の目的地・宇治に到着。まず目に飛び込んできたのは宇治川だ。なだらかな山並みから流れ出してくる宇治川は、鴨川より川幅が広く、雄大な印象を受ける。

■ 宇治市源氏物語ミュージアム

平安時代の暮らしは、今まで古典の文字から想像することしかできなかったが、この宇治市源氏物語ミュージアムを訪れてその実像に触れることができた。几帳や衣装はもちろん、貴族邸宅の模型や実寸大の牛車なども展示されている。中でも筆者の目を引いたのは、貴公子が女君を垣間見る姿で、1000年前の生き生きとした生活模様を感じ取れた。このほか、『源氏物語』の「宇治十帖」を元にした映画も上映されており、源氏物語の世界をまさに体感できたひとときだった。

☎0774-39-9300 ☎9:00~17:00(月曜休) ③500円

(上) 碁を打つ平安女性、(左下) 調度品、(右下) 牛車。簾越しに女性の姿が見える



(上) 茶室入り口。額面が落ち着いた雰囲気がかもしだす、(下) 茶室の中

■ 市営茶室「対鳳庵」

茶も欠かせない宇治の名物である。旅の締めくくりに、ほんなりとお茶をいただきたいものだ、と思っていると市営茶室「対鳳庵」の案内が。500円で本格的なお茶のお手前と季節のお菓子をいただくことができるということで早速入ってみた。

茶室でお茶をいただくのは初めてだったので、茶室の厳かな雰囲気にはしばし緊張。茶室の方々が懇切丁寧に教えてくださったので、茶道の作法をまったく心得ていなかった筆者でも、安心して臨むことができた。格式高い雰囲気の中味わうお茶の味は格別で、旅の疲れが癒されていった。

☎0774-23-3334 ☎10:00~16:00 ③500円



(農・2 びす)
(必殺コマンドが使えないじゃないですか; 編)